〔B 年〕聖霊降臨日(2023 年 5 月 28 日)

【旧約聖書日課】創世記　11章1～9節

1世界中は同じ言葉を使って、同じように話して
いた。2東の方から移動してきた人々は、シンアル
の地に平野を見つけ、そこに住み着いた。3彼らは、
「れんがを作り、それをよく焼こう」と話し合っ
た。石の代わりにれんがを、しっくいの代わりに
アスファルトを用いた。4彼らは、「さあ、天まで
届く塔のある町を建て、有名になろう。そして、
全地に散らされることのないようにしよう」と言
った。
5主は降って来て、人の子らが建てた、塔のある
この町を見て、6言われた。
「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話してい
るから、このようなことをし始めたのだ。これで
は、彼らが何を企てても、妨げることはできない。
7我々は降って行って、直ちに彼らの言葉を混乱さ
せ、互いの言葉が聞き分けられぬようにしてしま
おう。」
8主は彼らをそこから全地に散らされたので、彼
らはこの町の建設をやめた。9こういうわけで、こ
の町の名はバベルと呼ばれた。主がそこで全地の
言葉を混乱（バラル）させ、また、主がそこから
彼らを全地に散らされたからである。

【使徒書日課】使徒言行録　2章1～11節

1五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっ
ていると、2突然、激しい風が吹いて来るような音
が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。
3そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一
人一人の上にとどまった。4すると、一同は聖霊に
満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言
葉で話しだした。
5さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰
って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、6こ
の物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれ
もかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを
聞いて、あっけにとられてしまった。7人々は驚き
怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、
皆ガリラヤの人ではないか。8どうしてわたしたち
は、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろ
うか。9わたしたちの中には、パルティア、メディ
ア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、
ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、10フリギ
ア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリ
ビア地方などに住む者もいる。また、ローマから
来て滞在中の者、11ユダヤ人もいれば、ユダヤ教へ
の改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者も
いるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な
業を語っているのを聞こうとは。」

【福音書日課】ルカによる福音書　11章1～13節

1イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わ
ると、弟子の一人がイエスに、「主よ、ヨハネが
弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈りを
教えてください」と言った。2そこで、イエスは言
われた。「祈るときには、こう言いなさい。
『父よ、
御名が崇められますように。
御国が来ますように。
3わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。
4わたしたちの罪を赦してください、
わたしたちも自分に負い目のある人を
皆赦しますから。
わたしたちを誘惑に遭わせないでください。』」
5また、弟子たちに言われた。「あなたがたのう
ちのだれかに友達がいて、真夜中にその人のとこ
ろに行き、次のように言ったとしよう。『友よ、
パンを三つ貸してください。6旅行中の友達がわた
しのところに立ち寄ったが、何も出すものがない
のです。』7すると、その人は家の中から答えるに
ちがいない。『面倒をかけないでください。もう
戸は閉めたし、子供たちはわたしのそばで寝てい
ます。起きてあなたに何かをあげるわけにはいき
ません。』8しかし、言っておく。その人は、友達
だからということでは起きて何か与えるようなこ
とはなくても、しつように頼めば、起きて来て必
要なものは何でも与えるであろう。9そこで、わた
しは言っておく。求めなさい。そうすれば、与え
られる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門
をたたきなさい。そうすれば、開かれる。10だれで
も、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたた
く者には開かれる。11あなたがたの中に、魚を欲し
がる子供に、魚の代わりに蛇を与える父親がいる
だろうか。12また、卵を欲しがるのに、さそりを与
える父親がいるだろうか。13このように、あなたが
たは悪い者でありながらも、自分の子供には良い
物を与えることを知っている。まして天の父は求
める者に聖霊を与えてくださる。」

「聖書協会共同訳」（2018 年版）読み比べ

創世記　11章1～9節

[1]全地は、一つの言語、同じ言葉であった。[2]人々
は東の方から移って来て、シンアルの地に平地を
見つけ、そこに住んだ。[3]彼らは互いに言った。「さ
あ、れんがを作り、よく焼こう。」こうして彼ら
にとって、れんがが石の代わりに、アスファルト
が漆喰の代わりとなった。[4]彼らはさらに言った。
「さあ、我々は町と塔を築こう。塔の頂は天に届
くようにして、名を上げよう。そして全地の面に
散らされることのないようにしよう。」
[5]主は、人の子らが築いた町と塔を見ようと降っ
て来て、[6]言われた。「彼らは皆、一つの民、一つ
の言語で、こうしたことをし始めた。今や、彼ら
がしようとしていることは何であれ、誰も止めら
れはしない。[7]さあ、私たちは降って行って、そこ
で彼らの言語を混乱させ、互いの言語が理解でき
ないようにしよう。」[8]こうして主は、人々をそこ
から全地の面に散らされた。そこで彼らは、その
町を築くのをやめた。[9]それゆえ、この町の名はバ
ベルと呼ばれた。主がそこで全地の言語を混乱さ
せたからである、主はそこから彼らを全地の面に
散らされた。

使徒言行録　2章1～11節

[1]五旬祭の日が来て、皆が同じ場所に集まってい
ると、[2]突然、激しい風が吹いて来るような音が天
から起こり、彼らが座っていた家中に響いた。[3]そ
して、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人
一人の上にとどまった。[4]すると、一同は聖霊に満
たされ、霊が語らせるままに、他国の言葉で話し
だした。
[5]さて、エルサレムには天下のあらゆる国出身の
信仰のあつい人々が住んでいたが、[6]この物音に大
勢の人が集まって来た。そして、誰もが、自分の
故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけに
とられた。[7]人々は驚き怪しんで言った。「見ろ、
話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人では
ないか。[8]どうして、それぞれが生まれ故郷の言葉
を聞くのだろうか。[9]私たちの中には、パルティア、
メディア、エラムからの者がおり、また、メソポ
タミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、
[10]フリギア、パンフィリア、エジプト、リビアのキ
レネ側の地方に住む者もいる。また、滞在中のロ
ーマ人、[11]ユダヤ人や改宗者、クレタ人やアラビア
人もいるのに、彼らが私たちの言葉で神の偉大な
業を語っているのを聞こうとは。」

ルカによる福音書　11章1～13節

[1]イエスはある所で祈っておられた。祈りが終わ
ると、弟子の一人がイエスに、「主よ、ヨハネが
弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教え
てください」と言った。[2]そこで、イエスは言われ
た。「祈るときには、こう言いなさい。
『父よ、
御名が聖とされますように。
御国が来ますように。
[3] 私たちに日ごとの糧を毎日お与えください。
[4] 私たちの罪をお赦しください、
私たちも自分に負い目のある人を
皆赦しますから。
私たちを試みに遭わせないでください。』」
[5]また、弟子たちに言われた。「あなたがたのう
ちの誰かに友達がいて、真夜中にその人のところ
に行き、次のように言ったとしよう。『友よ、パ
ンを三つ貸してください。[6]友達が旅をして私の
ところに着いたのだが、何も出すものがないので
す。』[7]すると、その人は家の中から答えるに違
いない。『面倒をかけないでくれ。もう戸は閉め
たし、子どもたちも一緒に寝ている。起きて何か
をあげることなどできない。』[8]しかし、言って
おく。友達だからということで起きて与えてくれ
はしないが、執拗に頼めば、起きて来て必要なも
のを与えてくれるだろう。[9]そこで、私は言って
おく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探
しなさい。そうすれば、見つかる。叩きなさい。
そうすれば、開かれる。[10]誰でも求める者は受
け、探す者は見つけ、叩く者には開かれる。[11]あ
なたがたの中に、魚を欲しがる子どもに、魚の代
わりに蛇を与える父親がいるだろうか。[12]また、
卵を欲しがるのに、さそりを与える父親がいるだ
ろうか。[13]このように、あなたがたは悪い者であ
りながらも、自分の子どもには良い物を与えるこ
とを知っている。まして天の父は、求める者に聖
霊を与えてくださる。」

黙想のためのノート

次主日の教会暦と聖書日課

・5 月 28 日「聖霊降臨日」の日課主題は「聖霊の賜物」。「復活日」から 7 週間後＝50 日目の「聖霊降臨日」は、広く「五旬節（ペンテコステ）」の呼称が用いられてきた。「五旬節」は、「使徒言行録」が伝えるように、「過越祭」から七週間後に祝われてきた「七週祭」のギリシア語呼称「ペンテーコステー」（「50 番目」の意）に基づく。「七週祭」は、「レビ記」23 章や「申命記」16 章などに規定されるユダヤの三大祭の一つで、初夏の収穫祭が元になっていると考えられるが、「モーセ物語」にある「シナイ契約」（出エジプト 19～24 章）の故事を記念する祭りとして位置づけられてきた。

・旧約聖書日課は、「創世記」から、「バベルの塔の伝説物語」の箇所。使徒書日課は、「使徒言行録」から、聖霊降臨の出来事を伝える箇所。福音書日課は、「ルカによる福音書」から、主イエスが「主の祈り」を教えられた場面の箇所。

旧約日課（創世記 11 章より）

・「創世記」は、ユダヤ正典（ヘブライ語聖書）「律法」の第一巻。「モーセの宗教」と称されるユダヤ教共同体が「出エジプト記」から描かれる「モーセ物語」に先んじるルーツの物語として位置づける「族長物語」と、さらに人類根源の物語として位置づけられる「原初史物語」をもって構成される。「原初史物語」は、古代オリエント・メソポタミアに起源をもつ諸伝承を素材として、バビロン捕囚期以後の祭司・預言者神学（神の言葉至上主義）に基づいて編集されたものと考えられる。

・日課個所は、「原初史物語」の最後に置かれた「バベルの塔の物語」。前段 10 章からの記述によれば、この町は「ニムロド」によって建設され、この出来事の後に「バベル」と呼ばれるようになった。「ニムロド」は、「聖書」が繰り返し取り上げる伝説上の勇者で（創世記 10:8~9、歴代上 1:10、ミカ 5:5）、おそらく古代シュメールまたはアッカド時代に都市国家群を支配した盟主的王がモデルになっていると考えられている。一方、物語に描かれる「塔」は、前 6 世紀の新バビロニア帝国時代にネブカドネツァル王がバビロンに完成させたマルドゥク神殿の中の聖塔（ジッグラト）「エ・テメン・アン・キ」（「天と地の基なる建物」の意）がモデルではないかと考えられている。この聖塔は、古代シュメール人が建設開始しながら放棄されていたものを新バビロニア帝国王ナボポラッサル（在位＝全 658～605 年）がマルドゥク神の命により再建に着手したと伝えられている。

・この物語では、「言葉の混乱」が一つの主題となっている。古代メソポタミア地方は「セム語」に分類される同系統の言語群が広く展開していたが、セム系アラム人がこの地方の交易で重要な役割を果たすようになると「アラム語」が広く用いられるようになり、新バビロニア帝国と続くペルシア帝国は、これを公用語とした。

使徒書日課（使徒言行録 2 章より）

・「使徒言行録」は、「ルカ福音書」の続巻として著された「初代教会正史物語」。本書概説は、前回資料「聖書と祈りの会 230517」など参照。

・日課個所は、「聖霊降臨」の伝承逸話。本書 1 章の「イエスの昇天」の逸話で告げられていた「約束の聖霊」が弟子たちの集団に与えられ、彼らが世界宣教へと動き出す発端が描かれている。「ルカ文書」は、「ルカ福音書」と「使徒言行録」を通して一貫して「神の国の宣教」が広く展開していく事態を描くことを基軸として構成されている。「ルカ福音書」中で、その宣教活動は、まず主イエス一人で始められ、次いで弟子たちを従わせられながらなお主イエス主導で進められる段階、弟子たちをまず 12 人、続いて 72 人、短期間の宣教活動に二人一組で派遣する段階までが描かれ、続巻「使徒言行録」では、主イエスが昇天されて使徒たちを中心に宣教活動に着手する段階、世界各地に教会共同体が分散形成されて使徒以外のバルナバやパウロなどの宣教者らが広く宣教活動に携わる段階、と展開して描かれている。この「使徒言行録」が展開する弟子たちの教会の宣教活動は、それが人間の営みゆえに度々、内部対立・分裂の危機に接するが、彼らを宣教活動へと駆り立てると共に一致をも保証するしるしとして「聖霊」が位置づけられる。

・4 節「ほかの国々の言葉で」（ヘテライス・グロッサイス）の直訳は「異なる舌で」で、ニュアンスとしては「異口同音に」。「他言語で」という意味で訳されているのは、5 節以下の描写に基づいた意訳。

・6 節「自分の故郷の言葉で」（ティ・イディアィ・ディアレクトィ）の直訳は「自分自身の語り言葉で」。

・これらの「言葉」に関する描写の前提として冒頭に象徴表現で描かれていたのが「聖霊降臨」で、それは「分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった」と、個別に働く「聖霊」の授与として描かれている。新約文書における「聖霊」理解は多様で、一概に言えないが、「パウロ書簡」では「賜物」論と結びつけて「聖霊」を共同体内の相互の個別性を保証するものと位置づけており、日課個所の「聖霊降臨」描写と共通する発想が見られる。ただし、日課個所の場合は、共同体内の相互の個別性を保証するための基礎理論であるというよりは、「宗教言語」の多様性を認めるための基礎理論という側面が強いと考えられる。当時のユダヤ教実践の実情は不明な点も多いが、会堂での礼拝は聖書ヘブライ語に基づいて行われており、ファリサイ派として知られるラビ的ユダヤ教の趨勢の中では「ラビの教え」が正統教理として幅を利かせる側面もあった。主イエスの営みとそれを受け継いだ弟子たちの教会は、そのような旧来の枠組みから自由な立場で「聖書」を解釈し、各々が御言葉の教えを語るようになることで、宗教共同体としての新しいスタイルを確立していったとも推測され、その基礎付けとして「聖霊の授与」が重視されたとも考えられる。

福音書日課（ルカ 11 章より）

・日課個所は、主イエスが弟子たちの求めに応じて「祈り」の模範を教え、また「祈り願う」者として「聖霊」を求めるべきことを教えている箇所としてまとめられている。元来は前半部と後半部は別々の教えとして独立していたと考えられ、並行する内容の教えが「マタイ福音書」では「山上の説教」の中で別個に伝えられている。

・前半部の「祈り」の模範は、「主の祈り」の原型の一つとして知られる。もう一つの原型は、「マタイ福音書」6 章に伝えられており、成文化された「主の祈り」はおもに「マタイ福音書」本文に依拠している。

・「主の祈り」は、主イエス直伝の「祈り」として、初代教会以来、特別に重要視されてきた。これを主イエス独自のものとして理解し、ユダヤ教と区別されるキリスト教独特の祈りの規範と位置づけて考える者もあるが、近年は、むしろ、この「祈り」が当時のユダヤ教ラビたちの教えとかなりの程度で共通するものであることが知られるようになっている。

・後半部は、「熱心に祈る」ことを勧める教えとして展開されているが、最後 13 節で「聖霊を求める」ことを勧める部分は、これまで「聖霊」について触れられておらず、文脈的に不整合に思われる。にもかかわらず、「ルカ文書」全体から見れば、弟子たちが祈りにおいて第一に求めるべきものとして「聖霊」が提示されており、「聖霊降臨」の重要な伏線となっている。

来週の誕生日 （5 月 28 日～6 月 3 日）

主日礼拝の讃美歌から

・21-343 **番「聖霊よ降りて」**（＝Ⅰ499 番）は、19 世紀米国メソジスト教会の牧師ストークスの作詞。曲は、日本のメソジスト派讃美歌集『譜附基督教聖歌集』（1884 年）の編纂に際して依頼して作曲された。

・21-417 **番「聖霊によりて」**（＝ニ 95 **番、**Ⅲ31 **番「みたまによりて」**）は、おそらく 1960 年代にルター派の P.ショルテスによって青年伝道用に作詞作曲された讃美歌。収録歌集にはギターコードが付されている。

・21-476 **番「あめなるよろこび」**（＝Ⅱ150 **番**）は C.ウェスレーの代表的な讃美歌の一つ。『讃美歌 21』で改訳されている。曲は、ドイツ生まれでアメリカで活躍した音楽家ザンデルの作。日本では別の曲（475 番＝Ⅰ352 番）との組み合わせで歌われてきたが、476 番の曲や別の曲が近年は標準になっている。

・21-346 **番「来たれ聖霊よ」**は、19-20 世紀英国教会のランダフ主教ティモシー・リーズの作詞。聖霊降臨を共同体の出来事として歌う。曲は、20 世紀英国教会司祭で王立教会音楽学校のチャプレンであったテイラーの作曲。564 番でも組み合わされている。

21-343「聖霊よ、降りて」＝I499

Hover o'er me, Holy Spirit

1. Hover o'er me, Holy Spirit, / Bathe my trembling heart and brow; / Fill me with Thy hallowed presence, / Come, oh, come and fill me now.
〔Refrain〕:Fill me now, fill me now, / Holy Spirit, fill me now; / Fill me with Thy hallowed presence, / Come, oh, come, and fill me now.
2. Thou canst fill me, gracious Spirit, / Though I cannot tell Thee how; / But I need Thee, greatly need Thee, / Come, oh, come and fill me now. *[Refrain]*
3. I am weakness, full of weakness, / At Thy sacred feet I bow; / Blest, divine, eternal Spirit, / Fill with pow'r, and fill me now. *[Refrain]*
4. Cleanse and comfort, wholly save me, / Bathe, oh, bathe my heart and brow; / Thou dost sanctify and seal me, / Thou art sweetly filling now. [Refrain]

21-417「聖霊によりて」

We are One in the Spirit

1. We are one in the Spirit, we are one in the Lord. / We are one in the Spirit, we are one in the Lord. / And we pray that all unity may one day be restored, / and they'll know we are Christians by our love, by our love. / Yes, they'll know we are Christians by our love.
2. We will walk with each other, we will walk hand in hand. / We will walk with each other, we will walk hand in hand. / And together we'll spread the news that God is in our land. / and they'll know we are Christians by our love, by our love. / Yes, they'll know we are Christians by our love.
3. We will work with each other, we will work side by side. / We will work with each other, we will work side by side. / And we'll guard each man's dignity and give up all our pride. / and they'll know we are Christians by our love, by our love. / Yes, they'll know we are Christians by our love.
4. So all praise to the Father from whom all things come. / And all praise to Christ Jesus, His only Son. / And all praise for the Spirit who makes us one. / and they'll know we are Christians by our love, by our love. / Yes, they'll know we are Christians by our love.

21-476「あめなるよろこび」

Love Divine, All Loves Excelling

1. Love divine, all loves excelling, / Joy of heaven to earth come down; / Fix in us thy humble dwelling; / All thy faithful mercies crown! / Jesus, Thou art all compassion, / Pure unbounded love Thou art; / Visit us with Thy salvation; / Enter every trembling heart.
2. Breathe, O breathe Thy loving Spirit, / Into every troubled breast! / Let us all in Thee inherit; / Let us find that second rest. / Take away our bent to sinning; / Alpha and Omega be; / End of faith, as its Beginning, / Set our hearts at liberty.
3. Come, Almighty to deliver, / Let us all Thy life receive; / Suddenly return and never, / Never more Thy temples leave. / Thee we would be always blessing, / Serve Thee as Thy hosts above, / Pray and praise Thee without ceasing, / Glory in Thy perfect love.
4. Finish, then, Thy new creation; / Pure and spotless let us be. / Let us see Thy great salvation / Perfectly restored in Thee; / Changed from glory into glory, / Till in heaven we take our place, / Till we cast our crowns before Thee, / Lost in wonder, love, and praise.

21-346「来たれ聖霊よ」

Holy Spirit, ever living

1. Holy Spirit, ever living / as the Church's very life; / Holy Spirit, ever striving through her in a ceaseless strife; / Holy Spirit, ever forming / in the Church the mind of Christ; / thee we praise with endless worshp / for thy fruits and gifts unpriced.
2. Holy Spirit, ever working / through the Church's ministry; / quickening, strengthening and absolving, / setting captive sinners free; / Holy Spirit, ever binding / age to age, and soul to soul, / in a fellowship unending / thee we worship and extol.